

# 北海道襟裳岬におけるトド (*Eumetopias jubatus*) の来遊状況について

石川 慎也<sup>1)</sup>

はじめに

トド (*Eumetopias jubatus*) は、アシカ科の中でもっとも大きくオスの成獣で体重が1トン余り、メスで300kg前後である。トドの分布は、カリフォルニア南部からカナダ・アラスカの沿岸、アリューシャン列島、カムチャッカ半島、千島列島、サハリン周辺をへて北海道に至る北太平洋沿岸の広範囲である (King, 1983)。しかし、日本にはトドの繁殖地はなく、毎年10~11月から翌年の5月にかけて来遊するだけである (山中ら, 1986)。

近年、トドの生息数が激減しており、1960年代には20~30万頭の生息数が、1990年代までの30年間に約40~50%も減少したと確認された。そのうち北海道沿岸への来遊と関係の深いロシア海域では74%も減少したと報告された (Loughlin, et al., 1992)。そのため、アメリカやロシアではトドを絶滅危惧種に指定し、保護の対象としている (IUCN, 1993)。日本では、これまで深刻な漁業被害を与える害獣とし

て毎年多数が駆除されてきたが (和田ら, 1999)、1994年に水産庁が希少種、1997年に環境省が絶滅危惧Ⅱ類、2000年に北海道が希少種にそれぞれ指定し、保護の姿勢を示し始めている。

一方で、北海道日本海側沿岸を中心に毎年10億円以上の漁業被害が発生しており、最近では青森県下北沿岸でも被害が深刻化してきている。そこで、漁業被害を軽減するため、水産庁などによりトドの環境学的・生態学的調査が実施され、北海道日本海沿岸を中心としたトドの来遊状況について報告されている (図1) (星野, 2004、桜井ら, 2004)。

しかし、襟裳岬周辺の来遊状況についての調査は、過去に聞き取りによる調査 (山中, 1983、山中ら, 1986) と2000年より毎年年末に実施される「年末トドセンサス」(トドワーキンググループ未発表) のみである。そこで、近年の襟裳岬でのトドの来遊状況について報告する。

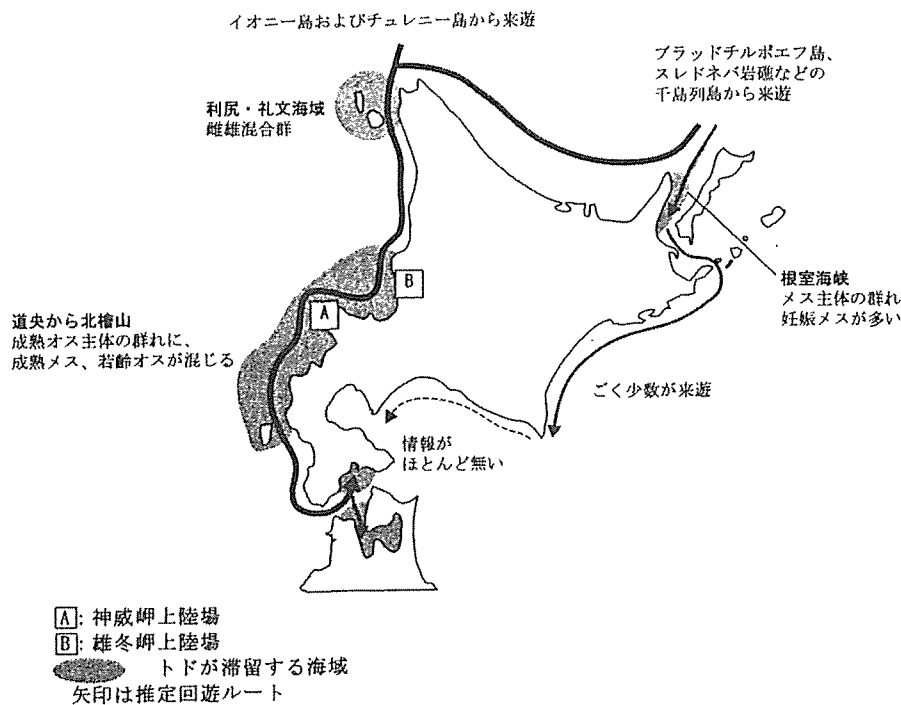


図1. 北海道沿岸におけるトドの来遊状況 (星野, 2004より)  
現在の推定来遊頭数は300-500頭、そのうち7-9割が日本海側に来遊

<sup>1)</sup> えりも町交流促進センター襟裳岬「風の館」  
〒058-0343 北海道幌泉郡えりも町字東洋366-3

### 調査地及び調査方法

襟裳岬は、日高山脈襟裳国定公園の南端に位置し、沖合い2kmにわたり大小の岩礁が続いている（写真1）。



写真1. 襟裳岬の岩礁帯(矢印は上陸地点)

その岩礁帯は、ゼニガタアザラシの日本最大の生息地となっている。

調査は、一年を通して襟裳岬にトドがどの時期に来遊するか目視観察した。調査は、1998年に205日、1999年に250日、2000年に249日、2001年に251日、2002年に236日、2003年に233日、2004年に246日にわたり実施した。襟裳岬の展望台より、30～60倍の望遠鏡を使用して、岩礁に上陸または遊泳しているトドを観察し記録した。また、襟裳岬では、トドの上陸する岩礁が観察者から約2kmと離れているため、メスおよび若齢オスの区別ができないため、成獣オスと他の個体に分けてカウントを行った。

### 結果

調査期間の襟裳岬におけるトドの目撃記録は表1の通りである。1999年および2001年は、調査実施日にトドを観察することはできなかった。トドの確認頭数は1998年～2002年までは、成獣オスではない個体がそれぞれ1頭のみで観察された（写真2、3）。

しかし、2003、2004年は、表2の通り複数の個体が観察され、その中には成獣オスも含まれていた（写真4）。



写真2. 成獣ではないトド（撮影：倉沢栄一）

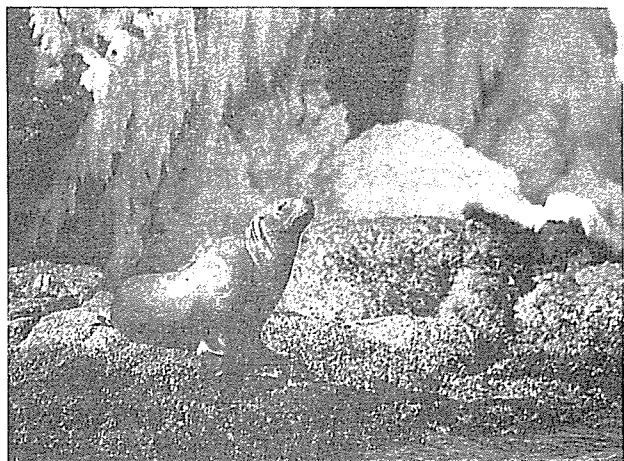


写真3. 成獣ではないトド（撮影：倉沢栄一）

しかし、今回の調査では、ロシア地域の繁殖場において標識を付けられたトドの確認はできなかった。襟裳岬におけるトドの来遊時期は、春以降も観察さ



写真4. トドの成獣。岩礁の高いところへ上がる

れた2000年を除くと、年度によって若干異なるが、

おおよそ2月下旬から4月上旬にかけてといえる。

トドが上陸する岩礁は、ほぼ決まっており、同じ時期に襟裳岬に生息しているゼニガタアザラシが上陸することのできない岩礁の高い場所であった(写真1, 4)。

## 考察

過去の襟裳岬の調査では、1970年ころまでは30頭前後の来遊がみられた。また、襟裳岬でのトドの来遊群の性比、年齢構成は、地元海獣狩猟者の金丸重春氏の話から、「ほぼ3:7の割合で雌が多く、雌雄ともに主体は若い個体である」という状況であった。しかし、その後1980年代にはまれに1~2頭上陸しているのをみかける程度にまで減少した(山中, 1983; 山中ら, 1986)。今回の調査で、2002年までは1980年代と同様の上陸状況であった。しかし、2003、2004年は成獣オスを含む複数の個体(最大同時確認数4頭)が上陸しているのが確認された。これが、襟裳岬に来遊するトドの増加につながっていくのかどうかについては、継続して調査を実施していく必要がある。

最後に、北海道周辺域のトドに関する生物学的情報が乏しいことが、トドと人との共存を考えていく上での障害になっている(和田, 2000)ので、今回の報告がその一助となればと光栄である。

## 謝辞

本稿をまとめるにあたり貴重な写真を提供していただいた自然写真家の倉沢栄一氏にお礼を申し上げます。

## 引用文献

- 磯野岳臣・後藤陽子・島崎健二(1998)「北海道沿岸に来遊するトド群の組成とその繁殖地」. 1998年度日本水産学会秋季大会要旨集
- 磯野岳臣・和田一雄(1999)「トドの回遊について」トドの回遊生態と保全(大泰司紀之・和田一雄編

著) 東海大学出版会, p 230-247.

星野広志(2004)「トドの来遊状況」北海道の海生哺乳類管理-シンポジウム「人と獣の生きる海」報告書(小林万理・磯野岳臣・服部薫編) 北の海の動物センター, p 2-5.

IUCN / SSC Seal specialist group. (1993) Status survey and conservation action plan. Seals, Fur Seals, Sea Lions, and Walrus. IUCN, Gland. p88

King, J. E. (1983) Seals of the world. 2nd ed. The British Museum (Natural History) Oxford University Press, Oxford. p240.

Loughlin, T. R., A. S. Perlov and V. A. Vladimirov. (1992) Range-wide survey and estimation of total number of Steller sea lions in 1989. Marine Mammal Science, 8. p 220-239.

桜井泰憲・星野広志・磯野岳臣・高山琢馬・石名坂豪・和田明彦(2004)「なぜトドは越冬来遊するのか」北海道の海生哺乳類管理-シンポジウム「人と獣の生きる海」報告書(小林万理・磯野岳臣・服部薫編) 北の海の動物センター, p 69-87

山中正実・大泰司紀之・伊藤徹魯(1986)「北海道沿岸におけるトドの来遊状況と漁業被害について」ゼニガタアザラシの生態と保護(和田一雄ほか編) 東海大学出版会, p274-295.

山中正実(1983)「北海道沿岸におけるトドの回遊に関する聞き取り調査報告」哺乳類科学第45号, p121-129.

和田明彦(2000)「北海道に来遊するトドの生態」北水試だより47, 北海道立水産試験場, p 15-20.

和田一雄・後藤陽子・磯野岳臣(1999)「トドの保全論」トドの回遊生態と保全(大泰司紀之・和田一雄編著) 東海大学出版会, p 250-313.

表1. 襟裳岬におけるトドの目撃記録

年	月	日	計
1998年	4月	12日	1日
1999年		目撃なし	0日
2000年	3/3,11,12,19、4/3-9,14-16、5/5-7,21-6/3,16,24、9/1-4		37日
2001年		目撃なし	0日
2002年	2/25、5/27		2日
2003年	2/16,18,19,22,24,27、3/1,12,13,14,18,25、4/5,6		14日
2004年	3/20,21,24,29、4/7		5日

表2. 2003、2004年のトドの上陸数

2003年

	2/16	2/18	2/19	2/22	2/24	2/27	3/1
成獣オス		1	1			1	1
他	1	1		1	2	1	2
合計	1	2	1	1	2	2	3

	3/12	3/13	3/14	3/18	3/25	4/5	4/6
成獣オス	1		3	1	1	1	1
他		1				1	1
合計	1	1	3	1	1	2	2

2004年

	3/20	3/21	3/23	3/24	3/29	4/7
成獣オス	1	3	2	1	1	
他		1				1
合計	1	4	2	1	1	1